

## 保健福祉常任委員会行政視察委員長報告

- 1 視察期日 平成23年10月5日（水）から7日（金）
- 2 視察地 山口県萩市・岡山県倉敷市・兵庫県姫路市
- 3 出席委員 渡邊良太、中村洋子、保角美代、  
高橋節子、大澤芳秋、福島忠夫
- 4 視察項目

〔萩市〕人口5万4,199人（平成23年10月1日現在）

- ・萩市立児童館について

〔倉敷市〕人口48万1,442人（平成23年10月1日現在）

- ・精神障害者の地域生活移行へ向けたサポート体制の構築について

〔姫路市〕人口53万6,438人（平成23年10月1日現在）

- ・姫路市すこやかセンターについて

はじめに萩市の視察概要から報告いたします。

### 「萩市立児童館」について

萩市立児童館は、中央公園（旧市立野球場跡地）の整備に伴い、新図書館に隣接して計画され、設計委託料1,131万7,000円、工事費2億581万6,000円の事業費で、平成21年9月に着工、22年10月完成、23年3月21日に新図書館との複合施設「萩あいぶらり」として開館しました。鉄筋コンクリート造一部鉄骨造2階建て、延床面積915.82㎡（1階：510.92㎡、2階：405.53㎡）で、1階は、ゆうぎ室、わくわく子ども図書館、交流ホール、児童クラブ室などからなり、2階には、体力増進室、音楽スタジオ、集会室、創作活動・多目的室が配置されています。利用児童を乳幼児から年長児童の一部を対象とした大型児童センターとして、萩市の子育て支援の新しい拠点となる施設です。

整備に当っては、「子どもたちの居場所づくり、児童健全育成対策の充実、子育て保護者の交流の場づくり」となる児童館を基本理念として、①子どもの遊びの場を提供すること、②放課後児童に生活の場を提供すること、③親子の心が通い合うふれあいの場を提供すること、④子育て世代の親同士の交流や情報交換の場を提供すること、⑤子育て情報の提供や、子ども会、母親クラブ等の地域組織を支援すること、⑥隣接する図書館との連携、協力を行うことなどをめざすこととしました。

児童館部門の運営は、「NPO法人萩こどもセンター」が萩市から業務委託を受け、児童厚生員2人の体制で当たっています。児童館の開設に当って、指定管理者制度の導入を検討しましたが、放課後児童クラブや図書館など異なる部門を含むことから、業務委託による運営方法を採用しました。児童クラブ（明倫小学校児童クラブの一部）は市の直営、わくわく子ども図書館に

については、旧図書館に引き続き「NPO 菘みんなの図書館」が司書1人、保育士1人の体制で運営に当たっています。

開館後、半年が経過しましたが、来館者数は予想したよりも多く、9月末現在で3万人を超えています。当初は、異年齢の子どもたち同士で遊んでもらうことを目論んでいましたが、なかなか上手くいっていないところもあり、今後、さらに交流が進むよう工夫していきたいとのことでした。

次に倉敷市の視察概要について報告します。

### 「精神障がい者の地域移行に向けたサポート体制の構築」について

倉敷市では平成21年度、精神障がい者の医療機関からの退院促進に向けたサポート体制づくりのため、国の補助事業を活用して、調査研究に取り組みました。精神障がい者に対する市民の理解の促進及び地域へ波及させるための人材育成の方策は何か、そして、退院前後にわたる相談体制を含む支援の充実と住宅確保を確実に実現することなどを目的として3つの調査研究からその方策を探りました。

研究その1は、精神障がい者に抱く印象及びその解決方法に関する研究です。市民1,798人を対象にアンケートを実施し、分析結果からネガティブな印象に対する解決方法を検討しました。その結果、①あらゆる機会を通じて、マイナスイメージにならない工夫をしながら普及啓発に取り組む必要があること、②精神障がい者との交流を啓発企画に積極的に取り入れること、③日頃から相談窓口等を周知し、苦情や相談を受けた際には、丁寧な対応に努めていくことが必要であることなどが分かりました。

研究その2は精神障がいに対する理解を地域へ波及させるための人材プログラムに関する研究です。専門家による研究会を立ち上げ、精神障がいに対する理解を波及させるための人材育成プログラム（くらしき心ほっとサポーター事業）を開発しました。地区組織からサポーター候補が推薦され、平成22年1月から「くらしき心ほっとサポーター」の養成が始まり、7回の養成講座受講後、16人のサポーターが誕生しました。現在は、56人のサポーターが地域の特性に応じた活動を始めています。

研究その3は民間賃貸住宅を活用して地域で生活するための条件整備に関する研究です。市内の民間賃貸住宅活用の可能性を探るため、宅地建物取引業者へのアンケート調査や民間住宅で生活している精神障がい者等へのインタビュー調査を行いました。アパートなどの民間賃貸住宅活用の可能性を高めるためには、①保証人の確保と家賃滞納を防ぐための工夫、トラブル対応等の支援システムの構築、②入院中・入所中からの地域生活を見据えた本人のスキルアップのための継続的な支援と中間施設の整備の推進、③精神障がい者に合わせた効率的かつ継続的な福祉サービスの提供と、既存の枠組みを超えた必要度の高い福祉サービスシステムの検討という3点の条件整備の必

要性が明らかになりました。

これらの研究結果を受けて、倉敷市では、精神障がいに対する理解者を増やすため、重層的に普及啓発活動に取り組むこととしました。また、住宅コーディネーターを配置し、住宅入居に向けた賃貸借契約支援、訪問、生活指導、引越し等に伴う支援などをトータルに実施することや、新たな民間賃貸住宅の開拓など関係機関のネットワークの構築に取り組んでいます。

終わりに、**姫路市**の概要について報告します。

#### 「**姫路市すこやかセンター**」について

姫路市すこやかセンターは、子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できる新しいタイプの複合施設として、平成14年4月30日に開館しました。鉄筋コンクリート造、地上3階地下1階建、延床面積約4,872㎡で、1階が「健康づくり施設」、2階が「老人センター」、3階が「子育て支援施設」で構成されています。また、別棟のいきいきグラウンド（床面積約608㎡）は、全天候型の屋内スポーツ施設で、「老人センター」の一部です。

1階の健康づくり施設は各自の年齢や体力に応じて気軽に健康づくりに取り組める施設です。温水プール、温泉施設、トレーニングルーム、運動フロア、リラクゼーションルームが配置され、運動施設や機器の効果的な利用方法の指導・助言を行い、高齢者等の介護予防に配慮したサービスプログラムの設定などソフト面を重視した運営を実施し、平成22年度は168,082人の利用がありました。利用者の71.06%が60歳以上の高齢者となっています。

2階の老人福祉センターは60歳以上の方を対象に健康増進や教養の向上、レクリエーションなど、高齢者のいきがづくり・仲間づくりの場として利用できる施設です。多目的ホール、学習室、集会室、老人クラブ連合会事務局が配置されています。多目的ホール、学習室など一部の施設は、午後5時から9時までは、有料で一般利用することができます。平成22年度は、老人福祉センターの利用が85,806人、有料の貸館利用が9,008人でした。

3階の子育て支援施設（子育て情報相談室）は、子育て中の保護者に対して、子育てに関する各種の支援事業を行う施設です。事務室・相談室、遊戯室、会議室・一時保育室が配置され、子育てに関する総合相談、情報の収集・提供、講演会の開催、子育てサークルの育成・支援等を行う「子育て情報相談センター」、親子で参加して、グループ活動や季節の行事を楽しみながら、子育てに関する体験学習を行う「子育て学習センター」や「ファミリーサポートセンター」などの事業を実施しています。平成22年度は、28,412人の利用がありました。

以上が視察の概要ですが、今後、本市において参考となる事項については、ご検討いただきますよう要望し、報告といたします。

なお、詳しい資料は、議長への視察報告書に添付されていますので、必要な方はご覧いただきたいと思ひます。

平成23年11月30日

保健福祉常任委員会  
委員長 福島 忠夫

北本市議会議長 加藤 勝明 様